

令和5年度第2回滋賀県観光事業審議会 議事概要

1 開催日時、場所

日 時：令和6年3月18日（月）10:00～11:30

場 所：滋賀県庁危機管理センター1階会議室1

2 出席委員（敬称略、五十音順）

○委員：今井 敏、上田 未来、川口 洋美、坂 仁美、佐藤 泉、竹中 仁美、
竹平 陽、野村 ゆき子、廣岡 裕一、松田 大祐、峯俊 智穂

○オブザーバー：江川 寛、西川 直治

3 議題等

■ 中村商工観光労働部次長挨拶

■ 定足数の確認

■ 議題（1）令和5年度の振り返りおよび令和6年度観光施策の基本方針

事務局より、令和5年度の振り返りおよび令和6年度観光施策の基本方針について説明。

■ 議題（2）シガリズム観光誘客キャンペーンの展開

事務局より、シガリズム観光誘客キャンペーンの展開について説明。

（佐藤委員）

2点教えていただきたい。

台湾旅行協会等のFAMトリップから約1年経ち、その後の動きはあったのか。プレゼンしてすぐに結果が伴うものではないと思うが、どのくらいの期間を経てリアクションがあるのか、その後追いかけをしているのかを教えていただきたい。

もう1点は、シガリズム観光誘客キャンペーンの情報発信について。市町団体観光関連事業者と連携するということだが、今後、具体的にどのように連携するのか。個々に情報発信をしている事業者もあり、どこに情報をあげれば県や地域の情報として盛り上げられるのかという話を事業者とすることが多く、教えていただきたい。

（河崎シガリズム推進室長）

1点目の台湾のFAMトリップについて、4月のFAMトリップの後、プロポーザルでREP

という代理店を台湾に置くことができ、今までコロナのためウェブでプロモーションをしていたものをリアルプロモーションに変えた。ある調査の訪日旅行計画伸び率で滋賀県が全国1位となるなど、非常に大きな反響があった。このFAMトリップだけではないが、今までの努力も重なって実ってきているのかなと考えている。ただ1点懸念は、台湾からの旅行者の伸びが全国よりも滋賀は少し遅いこと。どう対応するか来年度以降の課題と考えている。

2点目の情報発信についてだが、これからプロポーザルをしてどのようなPRをするかを含めて提案いただく。動画や写真素材を中心に制作したうえで、雑誌やSNSで展開していく際に、コンテンツが必ず必要になってくるもの。そのうえで地元の市町の皆様としっかり連携を図っていききたい。具体的な内容についてはこれからプロポーザルで決定する。

(川口委員)

万博について、プロモーション事業のご案内は何回かいただいたが、小さな事業者ということもあり、ここまで手が回せないし、こうしたイベントよりも普段来ていただくお客様、万博に関わらず来ていただけるお客様を大事にしたいと思っている。そのため、この案内には乗らなかった。

万博に対してどこまで期待できるものなのか、心の中では誰しも思っているのではない。国の事業のため機運を高めることが大事なかもしれないが、一方で、大阪から離れた我々の地域で盛り上げることに對して、一体どれだけ力やお金を割く価値があるのだろうかと考えるのも、特に我々のような零細な事業者にとっては当然のことだと思う。それに対してはどう思っているのか。

これは意見も兼ねてだが、人を呼び寄せることが仮に成功したとしても、タクシーの予約が全くできない。全国的にも言われていることかもしれないが、ライドシェア等を早く解禁してほしい。アメリカでは普通にみんな使っており、タクシーも併存している。最近タクシー運転手やタクシー会社に聞くと、人がいないとか繁忙期に人が回せるかわからないからとなかなかタクシーを回していただかず、すごく困っている。地元の方も、病院に行くタクシーの予約が取れないとか日常でも困っている声が多く聞かれているので、人を呼んだはいいが二次交通がどうなるのか懸念している。

また、キャッシュレス決済も推進してほしい。アメリカではすべてクレジットカードかタッチレスでの決済だった。しかし、日本ではキャッシュレスはそこまで進んでいないため、お客様は面倒な両替をして現金で決済をされていて非常に不便ではないかと感じている。特に今の円安の時にできるだけ盛り返したいというのがあると思うので、決済の部分でももう少し簡単にできないかなと日々思う。

最後に白鬚神社について、滋賀県のアイコンのように使っておきながら、いざ現地に行くと、横断禁止で神社の近くまで行けないのは、お客様に対してどうなのだろうか。みんな鳥居を見に来ているのに残念すぎると思う。県の観光シンボルだと思うので、少しでも近くで

鳥居を楽しめるようなことが将来できればいい。歴史文化は日本が誇るべきものなので、特に十分に楽しんでいただけるような環境を整備していただけたら、あとは私どものような事業者がなんとか現場で頑張りたいと思う。

(河崎シガリズム推進室長)

1点目の万博の件であるが、万博を契機に滋賀県の誘客をと多くの方から期待をいただいております、県も当然同じように思っている。私どもも簡単に万博で引っ張ってこれられるとは思っていないので、帰りや行きに寄れる人たちを大きなターゲットにしたい。中京圏、名古屋あるいは東京からだ帰りに寄ってもらいやすく、大阪、京都の宿泊費が高騰していく点から見ても、滋賀に泊まっていただき滋賀からバスや電車で万博に行くという流れを作りたい。

2点目の二次交通の件について、先日も北陸新幹線が敦賀駅まで延伸された際に、タクシーを使って500円でスポット間を巡れるものができたとニュースで発信されていたが、台数が70台しかないようで、やはり二次交通の取組は厳しいなと思っている。滋賀県も同じ状況でタクシーの台数が不足しているため、交通戦略課でライドシェアについて議論しており、観光の面でも地域の方の利便性の面でも期待しているところ。

3点目のキャッシュレス決済についてであるが、インバウンド受入推進事業において、中小企業の皆様向けにセミナー等を行い、お客様に使っていただきやすい環境整備に取り組んでいきたい。

最後に白鬚神社については、川口委員がおっしゃる通り、滋賀県でもさまざまな声が聞こえており、ビワイチでもシンボリックなスポットになっている。北小松のトンネルが国道161号の正規ルートに通ると、大きな交通量がトンネルの方にシフトされて一定安全性が担保できるようになるのではないかと思っている。現在、道路横断者も大変危険な状況だが、柵をしても渡られているという報道が出ており、観光で来ていただいて事故があっては本末転倒なので、私どもとしても1日でも早くトンネルを通していただきたいと考えているところ。

■ 議題（3）ビワイチの着実な推進

事務局より、ビワイチの着実な推進について説明。

(松田委員)

様々なアプリがある中からビワイチサイクリングナビを選んでいただき、継続して使っていただくには課題があると思うが、最近1年間でどのくらいアプリのダウンロード数が伸びているのか、稼働率などを教えていただきたい。

(菱田ビワイチ推進室長)

ビワイチサイクリングナビのダウンロード数は、アプリを開始した平成 30 年度末で 20,502 件、令和 4 年度末で 55,480 件、令和 6 年 2 月末で 61,666 件となっており、着実に伸びている。

(今井委員)

昔、息子 2 人を連れて自転車で琵琶湖沿いを走ったことがあるが、お弁当を食べる場所がなく困った。また、トイレの数が少なく女性の参加が少ないのをリアルに感じた。ポイントごとでは充実しているかもしれないが、それぞれのペースで進むので課題が多いように思えた。

また、県をあげてイベントをするとすると、事故などのサポートがどうなっているのかなと思いながら聞いていた。公的な人数よりも随分多くの方が琵琶湖一周に取り組んでいると思う。子どもやお年寄りも、自転車だけではなく歩いて回るとかの方がいいのではないかな。

(菱田ビワイチ推進室長)

琵琶湖を一周するビワイチには、徒歩や車等いろんな方法があるが、滋賀県ではビワイチ推進条例の施行に伴い、自転車で一周することをビワイチと定義し、サイクルツーリズムに特化した取組を行っている。

トイレや食べる場所の案内については、県内に約 350 箇所のサイクルサポートステーションを設けており、その中には食べる場所もあり、すべての場所でトイレを貸し出しただけ。そうした情報は、ビワイチサイクリングナビへの掲載などにより情報発信しているところであるが、今後更なる広報に努めてまいりたい。

子どものサポート体制については、琵琶湖一周は 200km あり、子どもがいきなり一周するのは難しい。そのため、将来的にはビワイチにつながるように、親子で参加いただくサイクリングガイドツアーを実施し、短いコースで自転車に興味を持っていただく取組を実施する。

事故サポートについては、イベント中は保険への加入やサイクリングガイドをつけることによるサポートを考えている。イベントのコースについてもできるだけ安全なコースを選んで実施したい。

(竹平委員)

エイドステーションのアンケート結果について、県外からの参加者の内訳を教えてください。

令和 6 年度観光施策基本方針の三本柱の 1 つがビワイチの推進になっているが、観光としてビワイチを推進することの最終的な目標は何か。シガリズムとして滋賀県の良さを体験してもらうことは重要だと思うが、それとビワイチをつなげることについてどのように

考えているのか教えてほしい。

ビワイチの子について、滋賀県では「うみのこ」「やまのこ」「たんぼのこ」をされているが、ビワイチの子は県民の子どもをターゲットにしてやっていくのか、それとも全然違うところをターゲットとしてやっていくのかを教えてほしい。

(菱田ビワイチ推進室長)

アンケート結果の県外からの参加者の内訳は、大阪府 24.3%、京都府 13.1%、愛知県 12.9%、兵庫県 9.7%の順となっており、近隣の大都市からの来場が多い結果となっている。

ビワイチの最終的な目的は、ビワイチの体験者数を増やし経済波及効果を高めることで、観光の振興と地域の活性化に寄与することである。最終的な数値目標は設定していない。

ビワイチの子については、「うみのこ」のように特定の学年の全ての子どもに体験してもらえればよいが、安全面等の課題があり実現は難しい。このため、将来的にビワイチの子ルートを作成し、周知されている状態になるように取り組みたい。

■ 議題（４）ここ滋賀の拠点機能の最大化

事務局より、ここ滋賀の拠点機能の最大化について説明。

(今井委員)

昨日と一昨日、ここ滋賀で商品を販売させてもらい、たくさんのお客様に来ていただき、商品の説明をすることによってお客様に喜んでいただいた。たまたま農家が店舗に立って説明できたので、農家にとっては当たり前に分かることを、大都市にあるここ滋賀のお客様に伝えられたが、通常はそうではない。農家の代弁者が店舗に立って毎日説明できる環境であればもっと売れたのではないだろうか。また、意外と滋賀県の方が多く来られており、東京で滋賀県民同士が仲良くなれる場所でもあった。

店舗販売に係る補助は1回しかないが、もっとここ滋賀で売りたいと思う業者はたくさんいるので、1回の枠は撤廃した方が県内事業者はイベントに参加しやすいように思う。ここ滋賀に行ってもらったスタッフに感想を聞くと、ここ滋賀のスタッフの接客がとても勉強になったと言っており、嬉しく思った。大都市に売りに行くだけでなく、農家が勉強できる場であることも大事だと感じた。

(片山ここ滋賀所長)

今井委員にお越しいただいた土日の報告は受けており、非常に好評であったと聞いている。スタッフの接客がとても勉強になったとのお話があったが、商品等の説明をしっかり行えるようにスタッフの教育も行っている。農産物を店舗で継続的に売るとは鮮度の関係から難しいので、週末を利用して農家さんに来ていただけるよう支援しているが、来年度も

引き続き力を入れていきたいと思っている。

ここ滋賀で売上を伸ばすということも大切であるが、テストマーケティングとしての使い方があるべき姿だと考えている。反応の良い商品の研究や、接客の勉強など、マーケティングの実証をしていただくのに大いに活用してもらいたい。旅費や運搬費は大きな課題だと認識しているが、なるべく多くの方に広く活用いただけるように補助は1回としている。

(上田委員)

白鬚神社のことで、県の様々な観光の象徴として使われており、たくさんの方が来られているが、地元民の思いとして場が荒らされているのではないかという意見を聞く。観光地である前に祈りの場であり、心静かに神様とつながる場所である。創建は伊勢神宮より古く、地元の人に代々守られてきた場所である。最近ではパワースポットと言われているが、地元で守る人、お参りする人の神様を大事にする思いや行動により、パワースポットとなりうる。それが最近、鳥居にモーターボートが何度もぶつかっていたり、ゴミがたくさん落ちていたり、場が荒らされており残念に思う。白鬚神社の難しいところは、鳥居の先の聖域で写真を撮りお参りもせず帰っていく、神社の中であり得ない行為がされているところである。今後 PR していくにあたって、インスタ映えや無料の観光場所という PR ではなく、どのような神社なのか、滋賀県が何を大切にしてきたのかという部分を伝えていかないと、ずっとこのような状態が続いてしまう。これは批判ではなく一緒に考えていきたいと思っている。仕方がないことだとは思いますが、観光のために何かを犠牲にしてきたことはずっとあったことだと思う。観光は消費して楽しむことではなく、そもそも何を大切にしていけないといけないのかを考えなければならない。

■ 議題（５）その他

事務局より、令和5年滋賀県観光入込客統計調査速報値について説明。

(野村委員)

2019年度に外国人入国者数が過去最高を記録したが、2019年までにかけて外国人の広域への訪問が広がったと聞いている。しかしコロナ禍で傾向が変わり、大阪、京都へ訪問する傾向が強くなった。来年度、リピート客を中心に少し広域に足を延ばされる訪日外国人が増える傾向にあると予測しているので、その点を踏まえて事業者で対策を講じていただければと思う。

(西川オブザーバー)

皆様の意見を聞き、参考にさせていただきたいと思う。

びわこビジターズビューローの財源の9割は県からいただいているが、来年度は万博や

国スポをにらんで強気の予算取りをしていると聞いている。しっかりと取り組んでまいりたい。

(江川オブザーバー)

全国旅行業協会は中小の旅行会社の集まりで、滋賀県では70社あったが、今年は8社ほど後継者問題やコロナの関係で廃業された。今後、どのように中小企業を下支えしていくのかを考えると、滋賀県にはインバウンドを取り込む素材はたくさんあるので、地道にやっていきたい。

(坂委員)

北部支援があることで、自治体ではなかなかできないことにチャレンジできるようになってありがたく思っている。米原、長浜、高島、それぞれ事情もニーズも違ってきていると北部振興を通して改めて感じている。米原に関しては7月に伊吹山の問題があったが、たくさんの方から早く登りたいと毎日意見をいただいている。たくさんの方に来ていただきたい反面、自然、環境と向き合いながら、それぞれの地域で観光が与える影響を考えていきたい。

■ 上田観光振興局長挨拶

<閉会>